

第3回奈良市みどりの基本計画策定委員会に関する意見の概要	
開催日時	令和6年8月5日（月）午後3時から午後5時まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 601会議室
意見等を求める内容等	1. 第2回策定委員会における各委員コメントに対する修正案及び重点施策の具体案について 2. 保全配慮地区、緑化重点地区、地域別計画の検討について
参加者	出席者5人 ・ 事務局 8人
開催形態	公開 （傍聴人0人）
担当課	都市整備部 公園緑地課
意見等の内容の取り纏め	
事務局による概要説明の後、出席者に意見を求めた。 《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》 1. 第2回策定委員会における各委員コメントに対する修正案及び重点施策の具体案について 事務局より、説明を行い、意見を求めた。 【意見等】 〈全体について〉 ・「緑」を「みどり」とするなど全体にわかりやすくなっている。 ・言葉使いについて整理が必要である。ウォークブルなどわかりにくい。言葉そのものより、込められた思い（歩きたくなる）が重要である。 ・コミュニティパーク、キッズパーク、児童遊園の使い方も曖昧で、本当に伝えたいことを伝えるためには言葉の意味、解説、整理が必要である。 ・重点施策「みどりへの関心や意識をたかめるみどりに関する情報発信」は「みどりへの関心や意識をたかめる戦略的な情報発信」に訂正する。 〈基本理念について〉 ・副題「みどりを育む みどりをつなぐ みどりを活かす」は4つの基本方針と合わせてはどうか。整合性がとれるほうがわかりやすい。全体の施策体系になっている方が良いと思う。 ・「みどりと暮らす」と「日常にみどりを感じる」は重複しており、同じ言葉を繰り返している感じが個人的にはあり、並べるのはどうなのか。	

〈重視すべきみどりの効果について〉

・well-being と生物多様性は相互に関係しており、独立したものではない。生態系サービスなど自然を守り活かすことで人が幸せになるなど相互作用があることに配慮し、文言の整理、精査が必要である。

・「Well-being」と「生物多様性」が相互に関係していることも示せるとよい。

〈みどりの効果について〉

・「Well-being」と「生物多様性」を最終的な効果として挙げるのであれば、「存在効果」の中の「生物多様性」は削除した方がよい。「Well-being」は単なる健康や福祉だけでないという解釈は可能であると思うが、語句についての説明は必要である。

〈目標・指標について〉

・現計画で使用していた指標（量を重視）をベースとした上で、質的な評価を加える方がよいのではないか。

・継続的に評価していく仕組みが重要である。

・「みどりの満足度」は総合的な指標としてはあっても良いが、その増減を評価するだけになるのは良くない。みどりとの接触機会、目にする機会、意識する回数のような客観的な指標があればと思う。

・日々の暮らしのなかで市民が公園だけでなくみどりとどれくらいの頻度で触れているか、触れる機会をどれくらい増やせるかといった指標がある方がないと良い。

・公園管理は自治体レベルになっていて高齢化が課題であり、いかにやり過ごすかという意識になっている。公園利用の仕方の自由度が上がれば色々な人が公園に関わってくると考える。

・「市民農園開設数」や「みどりに関するイベント開催数」は量的な指標に感じるので、農園でどのように豊かになったのか、イベントによって日常の暮らしぶりがどのように変化したのか、というような指標であれば質を測れるのではないか。

・多様な主体をいかに増やすかが重要である。仕組みが柔軟であり、市が地域に寄り添っているところが見えるとよい。

・多様な主体が関わりたくなる仕組みが重要である。

・みどりを育む人材としてどういう人が必要かを整理する必要がある。また、どれだけみどりに取り組みたい人がいるかを考えると、実現するのは大変困難であると感じる。

〈施策体系について〉

・わかりやすくなっているが、骨格は変わっていないのに文言が増えたことで複雑になっているように感じる。

・基本施策から重点施策への流れが良いが、基本方針との指標の関係など、全体的には流れが説明できる方がよい

・基本方針3「みどりのある暮らしを支えるネイバーフッドコミュニティを築く」に

について、「ネイバーフッド」と「コミュニティ」は意味が重複しているので、検討が必要である。(使用していいかはわからないが、)「グリーンネイバーフッド」などが良いのではないかな。

- ・施策の柱「みどりをたしなむ機会をふやす」について、「たしなむ」という表現も、通常は使わない表現であり適切ではない。

- ・基本施策「花いっぱいのもちをつくる」について、「花いっぱいのもち」は一概に良いのか違和感がある。秋の七草が自然にみられるなど、奈良らしさを出した方がいい。

- ・基本施策「多様な主体との連携」について、多様な主体を民間企業とみているのであれば、市民にとって遠く感じる。あひる公園での「わくわくフェスタ」など、市民主体の取り組みも多く行われており、着目してほしい。公園で炊き立てご飯を提供する「青空食堂」は、身近な公園に人が集まってほしいという思いで実施しており、次の担い手探しにもつながると考える。

〈重点施策について〉

○「人と自然が寄り添う里山からのまちづくり」について

- ・里山に関する項目を一番目に示しているのが良い。

- ・「里山」のワードは重要であるが、イメージが固定化していて薪炭林だけを見ている気がする。民有林と人工林とは課題が異なり、保全に関わる団体の質も異なる。具体的に検討する際は整理が必要である。

- ・「自治会等による小規模な森林整備への経費補助」はわかりにくく、補足が必要である。

- ・公園管理を行っている自治会は団体により意識も異なり、人材育成プラス体系の構築が必要である。

- ・里山では利用することによって、良い環境が保たれ、保全される。そういう意味では里山保全には利活用も整備も含まれるので、表現を訂正する必要がある。

○「居心地が良いウォーカブルなまちなかの形成」について

- ・「ウォーカブル」という言葉の本質として、みどりや公園がどう関わるかである。「主要駅を核としたウォーカブルなまちづくり」はみどりだけで解決できない。「ウォーカブル」は「歩きたくなる」と「歩きやすい」にわけられ、「歩きたくなる」は公園の存在などに大きく影響しているほか、「歩きやすい」は土木的な話になるが木陰づくりなどがあげられる。

○「質をたかめる戦略的なみどりのマネジメントの推進」について

- ・「みどりの質」はどういったもので、どう高めるのかイメージしづらい。

○「みどりへの関心や意識をたかめる戦略的な情報発信」について

- ・情報発信にはコミュニケーションが大切であり、一方通行の発信だけでなく、いかに市民にみどりへの関心を高めてもらうか、市民の心に届ける市の姿勢が重要である。

- ・「シティプロモーション」という言葉は商業的な意味合いが強いので、やめた方がいい。

2. 保全配慮地区、緑化重点地区、地域別計画の検討について

事務局より、説明を行い意見を求めた。

【意見等】

〈保全配慮地区、緑化重点地区について〉

○全体について

・バランスよく選んでいると思うが、どういう観点でこれらの地区を選んだのか。基本方針などとのマッチングはできているのか。川、まち、農地などのつながりの軸から選択しているのか。

・基本方針1「奈良らしさ」を感じるみどりをまもり、次世代へつなぐ」から基本方針4「みどりの価値を共有し、みんなで育む」のうちで反映されていないものがあると困るのではないかと訪れて人に魅力を感じてもらえるような見える化が必要である。

・地区選定の根拠や基本方針、基本施策とのリンクについて説明が必要である。

○保全配慮地区について

・市域図をみると指定している地域以外にもため池が多く点在しており、多様な生物多様性も潜んでいると考えられる。現在の地区設定が悪いわけではないが、地図だけではわからない人の動きも配慮する必要がある、そうした情報も提供して欲しい。

・柳生地区について、保全配慮地区に加えたのは良いと思う。柳生地区において頑張っている人がおり、環境を守りながら魅力的にしていく動きが進められている。

・矢田丘陵地区について、既に一部で進んでしまっている宅地開発やソーラーパネルの設置を制限できると良い。

・矢田山丘陵地区について、生駒市でも重要視されていると思われ、両市で調整しておく必要があるのではないかと。

○緑化重点地区について

・4つの緑化重点地区の順番に何か意味があるのか。

・前回緑化重点地区に位置付けていた「あやめ池」を今回は外しているが、その説明が必要なのではないかと。

・奈良町周辺地区と八条大安寺周辺地区は隣接しており、2つを合わすとずいぶん大きな地区になってしまうが、適切なのか。

・高の原地区について、平城東中学校の校区は指定区域よりも平城山駅を越えて東に広がっている。高の原駅前に比べ平城山駅周辺は低迷しており、今大変な地域をどう活性化させていくかが重要と考える。

〈地域別計画について〉

○西部地区について

・富雄地区周辺は歴史資源も豊かであり、富雄丸山古墳など地域の歴史・文化に目を向けてもらえるよう今後の保全整備を大切にしたい。

・奈良らしさは歴史性や風致から成り、みどりに付随する歴史文化にも着目していく必要がある。このことは、もっと前段で示す必要があるのではないかと。

○中部地区について

- ・庁舎前に整備された芝生広場は素晴らしいと思うが、禁止看板しかないので、活用方法について情報発信した方が良い。

- ・みどりとして芝生整備のことが書かれているが、気象緩和機能などみどりのもつ空間機能をもっと書き足していけるのではないかな。

○東部地区について

- ・農林の活性化に関する記載が「ふれあい交流ファーム」しかないのは残念である。東部地域においては観光農業的なことだけでなく、自然農法的なことも入れていけないかな。生産緑地の消失問題や新規就農者の確保なども含め、農地のあり方から考え直す必要がある。

○地域別計画と地域地区との関係について

- ・地域別計画があって、緑化重点・保全配慮地区の順番の方が良いのではないかな。

〈イラストについて〉

- ・表紙はとても良い。施策の柱や基本方針に関するいくつかのイラストを統合したものが表紙になると良いと思う。イラストは表紙に使用するだけでなく、市民とのコミュニケーションにもなる良いツールになる。

- ・施策などは最後まで修正によって変わることがあるので、イラストの修正は最後をお願いした方が良い。